

学校関係者評価報告書

東海医療工学専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人セムイ学園 東海医療工学専門学校 学校関係者評価委員会は「令和5年学校自己評価表」の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、下記のとおり報告します。

「学校関係者評価」の実施方法について

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施し、学校関係者評価委員に評価していただきました。

I 令和6年度 学校関係者評価委員会 開催概要

1. 日 時

令和6年10月10日～25日

2. 会 場

書面会議

3. 議 事

(1) 委員長の選任

(2) 令和5年度の自己評価結果について

II 学校関係者評価委員、学校担当者

(1) 学校関係者評価委員

氏名	所属 職名等	構成
澤田 雄一郎	医療法人 済衆館病院	病院・施設
野々垣常正	東海歯科医療専門学校	学識経験者
中村 仁	学校法人セムイ学園	卒業生

(2) 評価担当教職員一覧

氏名	所属・職名
小足 有紀	東海医療工学専門学校 校長
大野 健二	東海医療工学専門学校 救急救命科 学科長
太田 晃二	学校法人セムイ学園 法人本部 総務部長

Ⅲ 学校関係者評価委員による意見、提言等

評価項目	評価委員の意見、提言及び評価
基準 1 「教育理念・目的」	ホームページ、学生便覧等で教育理念・教育目的・教育方針などを周知されていると思う。 しかし、卒業生アンケートの結果 7.9%の低下があるのは教育内容、目的の意図するところの理解、興味があるかによって認知度の増減につながる。ただ掲示するだけではなく、教職員より教育理念・教育目的などを明確に伝え、認知度の上昇につなげられるよう期待したい。
基準 2 「学校運営」	・課題：教育者の職場環境は、教員のみでなく、学生教育・指導において重要である。この点 Job 管理は重要と考えますが、学生への教育は学生自身のレベルに差があることからどのように質の向上を目指していくかは重要なので今後も検討していくことが求められる。 ・定着のための教員研修をグループごとに行う必要があると考えます。
基準 3 「教育活動」 (澤田委員)	・ホームページなどで教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）として視覚化されている。今後、救急救命士の社会的なニーズに応じてカリキュラムなどの変更・改善がさらに必要なことだと思う。 また、院内救急救命士を目指す学生などのカリキュラムや教育内容の変更も検討いただきたい。
基準 4 「学修成果」	・国家試験合格率は、全員合格へ導いた事は日頃の教育活動や指導の成果であると評価できる。また、学生が希望する就職先情報を、幅広く提供できるよう支援されている。 ・職域拡大に伴い、医療機関に所属する救急救命士の増加や救急救命士に求められる医療知識・技術を考慮したカリキュラム作成、教職員の資質向上に努めていただきたい。
基準 5 「学生支援」	救急救命科の学生支援では机と椅子の変更がされたことで勉強がやりやすくなりました。また、就職活動では先生方が生徒の相談をよく聞いてくださるのでとても充実していた。
基準 6 「教育環境」	学外活動などの活動をホームページや SNS など公開・発信を行っているところから評価できる。新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考えると海外研修などは見送る他ないと思われるが、世界状況などを鑑みて再開の検討をしていただきたい。 以前より器材・備品の経年劣化が目立っており、シミュレーション人形や半自動除細動器などの更新はあるものの、その他器材の更新が少ないと思われる。器材購入の必要度、購入日、経年劣化などを考慮し随時更新を行っていただきたい。

	災害における対策・活動などもホームページや SNS で公開・発信していただきたい。また、ライフラインの停止に伴う対策として、発電機・再生可能エネルギー等を利用した電気設備や地下水などを利用した水の確保など対策が必要になると考えます。
基準 7 「学生の募集と受入れ」	学園 HP では募集要項やその他制度についてわかりやすくまとめられていて見やすいと感じました。
基準 8 「教育の内部質保証システム」	・内部監査に専任部門がないのであれば、外部の有識者を採用してはどうか。兼務では、質の高い教職員の取り組みにレベルダウンが生じかねない。 ・8-3 に関しては、日頃から学生ともよく相談をし、防止委員会に直接の目安箱設置も検討されてはどうか。
基準 9 「財務」	・18 歳人口が減ってきている状況から、日頃から取り組んでいる教育の特徴を目に見える形で押しだし知ってもらう必要がある。中期目標を前面に打ち出し、高校生にアピールする必要があると考えます。 ・予算外の関しては支出に関しては予備費を有効かつ迅速に行う必要性があると考えます。
基準 10 「社会貢献」	救急救命科での活動では消防の訓練のボランティアに参加（学生自身の勉強になり社会貢献としての活動にもつながっていたので良い活動だと感じました。

以上、評価委員より示された提言等については、所管部署において、改善策を検討するものとする。